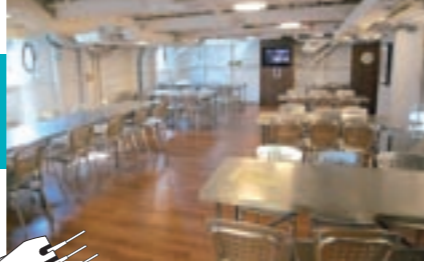


ベルファスト号の世界を探索!

艦内にある、見学者用カフェ。博物館としてオープンするにあたって新しく設けられた。メニューはサンドイッチ、ケーキ、マフィン、コーヒー、紅茶など、きわめて英国的なラインアップ。



※ベルファスト号に乗艦したら、まずは艦内見取り図を入手しよう（英語版を間違えずにピックアップすること）。

※艦内は入り組んでいるため、展示を見落としたり、逆に何度も同じ展示を見ることになったりしがち。赤い矢印（順路）にそって歩けば、効率よく見学できる。

※艦内はかなり狭い。ベビーカーを押しての見学は不可。また、はしご段を上り下りすることもあるので（頭を打たないように注意）、ミニスカートでの見学、両手に荷物を下げての移動はお薦めできない。また、フロアは平らなところばかりではないため、ハイヒールは避けるべき。

※見学には1時間半から2時間を目安にしたいもの。

※艦内は大きく3つのエリアに分けられる。

薄黄色のエリア

Life on Board :
乗員の日々の暮らしが見学できるエリア。
見学ポイント 10 ~ 19

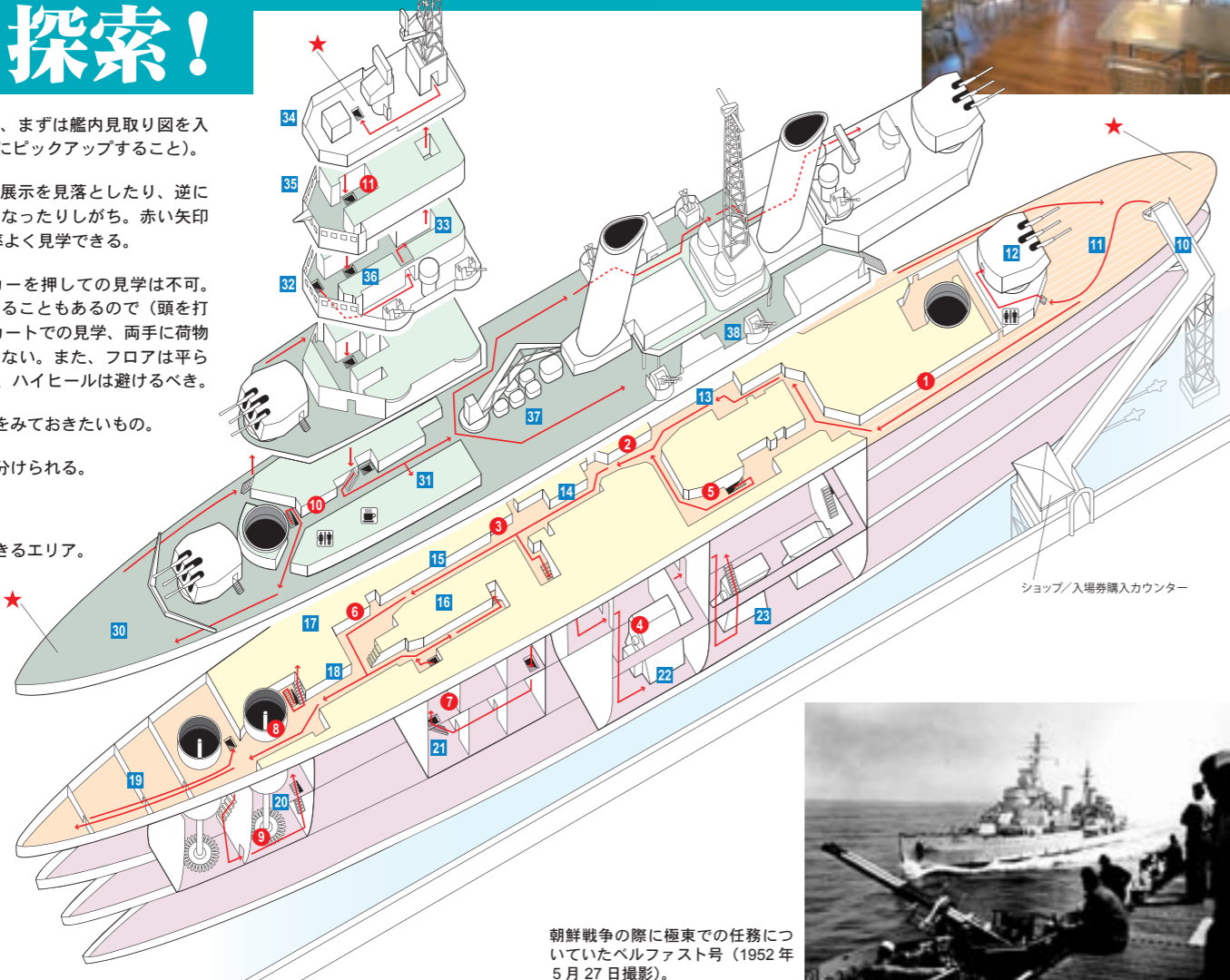
薄ピンクのエリア

How It Works :
推進システムが見学できるエリア。
見学ポイント 20 ~ 22

薄緑色のエリア

Where It All Happens :
実戦に関連した部署を見学できるエリア。
見学ポイント 30 ~ 38

← 順路
★ 眺望ポイント



朝鮮戦争の際に極東での任務に就いていたベルファスト号（1952年5月27日撮影）。



Life on Board 乗員の日々の暮らしが見学できるエリア

10 Walkway

歩行者用通路

ベルファスト号はテムズ河の南岸に係留されている。ショップで入場券を購入し、テムズ河にかかるこの通路を歩いて艦の甲板へと向かう。なお、ショップには海軍グッズを中心に英軍関連のお土産や書籍などが並ぶ。少し目先の変わったプレゼントが見つかるかも。

11 Quarterdeck

後甲板

ここで艦内見取り図を入手することができる。かつて、後甲板に出ることができるのは士官クラスのみで、水平たちがここに足を踏み入れることができるのは、特別な行事、日曜日の合同礼拝などに限られていたという。なお、海軍旗=写真上=は、午前8時（冬季は9時）から日没まで掲げられる（海上では24時間）。



◀1948年10月にベルファスト市民から贈られた鐘のレプリカ。ちなみに、同艦のモットーは、ベルファスト市のモットーと同じ「Pro Tanto Quid Retribuamus (What shall we give in return for so much?)」(直訳すれば、「どうすればその恩に報いることができるか?」ということか)。

12 'Y' 6-inch Gun Turret

6インチ砲塔「Y」



13 Torpedo Flat & Laundry

魚雷保管所/洗濯室

大きな魚雷のモデルが横たえてある。



14 Sound Reproduction Room, Chapel & Mail Room

音声再生室/礼拝堂/郵便室

郵便室では、気難しい経理のオジさんのような人形が対応しており「ナニ、貴殿への郵便? (そんなもの、あると思うか)」といわれそうな雰囲気。



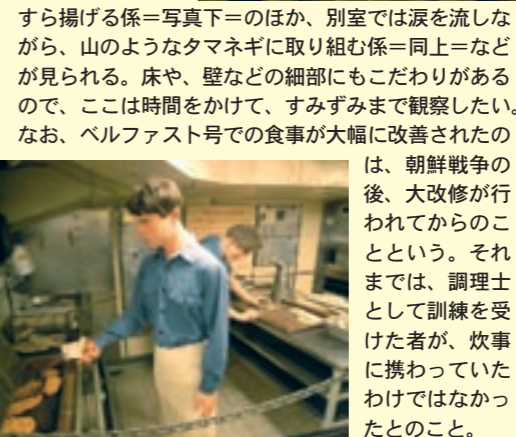
15 1950s Messdeck, Bakery, Butcher & Potato Store

1950年代の下甲板 (げかんばん)、製パン室、精肉処理・ジャガイモ貯蔵室

16 Galley

炊事室

ロウ人形がたくさん立ち働いており、発見がたくさんあるコーナー。大量のフィッシュ&チップスを作るために、延々と魚をさばく係、ひたすら揚げる係=写真下=のほか、別室では涙を流しながら、山のようなタマネギに取り組み係=同上=などが見られる。床や、壁などの細部にもこだわりがあるので、ここは時間をかけて、すみずみまで観察したい。なお、ベルファスト号での食事が大幅に改善されたのは、朝鮮戦争の後、大改修が行われてからのことという。それまでは、調理士として訓練を受けた者が、炊事に携わっていたとのこと。



17 Sick Bay, Dispensary & Dentist

病室/医務室/歯科治療室



手術が行われている部屋には緊迫感が漂うが、病室で臥せている兵士たちの顔には、どこか寛いだ様子がうかがえる。なお、歯科治療室では、歯医者特有のにおいまで再現されている。医師と虫歯の兵士のやりとり(音声付)もリアルなお見逃しなく。

18 Provision Issue Room (rum ration) & NAAFI

供給品(ラム酒の配給分)受け取り室/売店

航海中は水は貴重品であるため、海軍では伝統的に食事のたびに、ラム酒が配給されていた。また、NAAFI (Navy Army and Air Force Institute) 運営の売店では、1960年以降、アルコール類も購入できるようになった(ただしビールなら1日2缶までと制限あり)。ちなみにNAAFIは互助会のような存在で、売店からの売上げは同艦の乗員のために使われた。

19 Arctic Messdeck

下甲板



How It Works 推進システムが見学できるエリア

20 'B' Turret 6-inch Shell Room and Magazine

6インチ砲塔「B」用砲弾室/弾薬庫

21 Forward Steering Position

操舵室



22 Boiler Room

ボイラー室

23 Engine Room

エンジン室

Where It All Happens 実戦に関連した部署を見学できるエリア

30 Fo'c'sle

前甲板(水兵たちの居住エリア)

「Fo'c'sle」は「forecastle」の略で「フォクスル」と発音する。

31 VHF Room & Aircraft Hangar

高周波情報収集室/航空機格納スペース

32 Admiral's Bridge

艦橋

33 Bridge Wireless Office & Electronic Warfare Office

無線室/電子系統管理室

34 Gun Direction Platform

砲弾照準プラットフォーム



35 Compass Platform & Operations Room

コンパス(進路)プラットフォーム/作戦橋

36 Admiral's & Captain's Sea Cabins

提督/艦長室

37 Boat Deck

ボート甲板

38 4-inch HA/LA Guns

4インチ高射角/低射角砲



取材中、タワー・ブリッジの橋げたが上がり、大型クルーズ船が後ろ向きに入ってきた。やがて、ベルファスト号に接続。聞けば、ノルウェーから来英した船で、ここに2日ほど停泊し、乗客はその間、ロンドンなどの観光を楽しむという。干潮時には水位が低くなりすぎて、テムズ河の岸沿いに接岸するのは無理であるため、こうしてベルファスト号ならぶ形で係留され、乗客は同号経由で英国に「入国」することになる。ベルファスト号の艦上で入国審査、税関チェックも行われるとのことだった。

ジャーニーのクラシフィード・アドなら

お申込みからお支払いまで

オンラインでラクラク

掲載料はその場で自動計算

通常締切に間に合わなかった方のために、**Express, Super Express** (追加料金がかかります) もご用意しています。
詳細・お申込みはこちらをご覧ください。

www.japanjournals.com

ご利用頂けるカード

Switch / Maestro / Solo / Delta / Master
Visa / JCB / American Express



Japan Journals Ltd
Journey Classified Dept.